

2017年2月28日

各位

積水ハウス株式会社

ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス「グリーンファースト ゼロ」の推進等 第26回地球環境大賞”経済産業大臣賞”を受賞

積水ハウス株式会社(本社:大阪市北区、社長:阿部 俊則 以下、積水ハウス)は、2月28日(火)に発表された第26回地球環境大賞(主催:フジサンケイグループ、後援:経済産業省、環境省、文部科学省、国土交通省、農林水産省、一般社団法人日本経済団体連合会)において、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)「グリーンファースト ゼロ」の推進等の環境活動が評価され、「経済産業大臣賞」を受賞しました。

授賞式は2017年4月10日(月)に東京・元赤坂 明治記念館で行われる予定です。

【地球環境大賞について】

「地球環境大賞」は、1992年、「産業の発展と地球環境との共生」をめざし、産業界を対象とする顕彰制度として、公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン、名誉総裁・秋篠宮殿下)の特別協力を得て創設されました。本制度は地球温暖化防止や循環型社会の実現に寄与する新技術・新製品の開発、環境保全活動・事業の促進や、21世紀の社会システムの探求、地球環境に対する保全意識の一段の向上を目的としています。



ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス (ZEH) である
「グリーンファースト ゼロ」の例



内と外が心地よくつながる大開口のリビングでも
快適な暮らしとZEHを実現

積水ハウスは、1999年に環境を経営の基軸とする「環境未来計画」を発表、2008年北海道洞爺湖サミットで政府が掲げた2050年にCO₂排出量を60~80%削減するという目標を受け、2050年に住まいからのCO₂排出量をライフサイクルでゼロにすることを目指す「2050年ビジョン(脱炭素宣言)」を策定しました。これを達成すべく2009年には、快適で健康に暮らしながらCO₂排出量を大幅に削減する環境配慮型住宅「グリーンファースト」の販売を開始しました。2020年までに住宅メーカー等の新築住宅の過半数をZEH化するという政府の目標を先取りした「グリーンファースト ゼロ」を2013年に販売を開始しました。2014年には、当社はその政府の目標を前倒して上回り、2015年度の新築戸建住宅のZEH比率は71%※に達しました。今般の受賞は、長期目標の設定とこれに基づく具体的な行動の成果が認められたものです。

2015年のCOP21「パリ協定」の採択、2016年のCOP22「パリ協定」の発効により、温室効果ガス排出量削減が全世界共通の課題である事がより明確化され、2030年までに2013年度比26%削減の日本の公約達成には家庭部門において約40%の温室効果ガス排出量削減が必要です。

積水ハウスは、今後も環境大臣認定「エコ・ファースト企業」として、COP21において「建物および建設部門における共同宣言」に賛同・署名した企業として業界を牽引し新築戸建住宅のみならず、賃貸住宅、分譲マンション、リフォーム・リノベーションにおいてもZEH化を積極的に推進し“脱炭素社会”構築を目指します。

※2016年度上半期の新築戸建住宅のZEH比率は72%となっております。

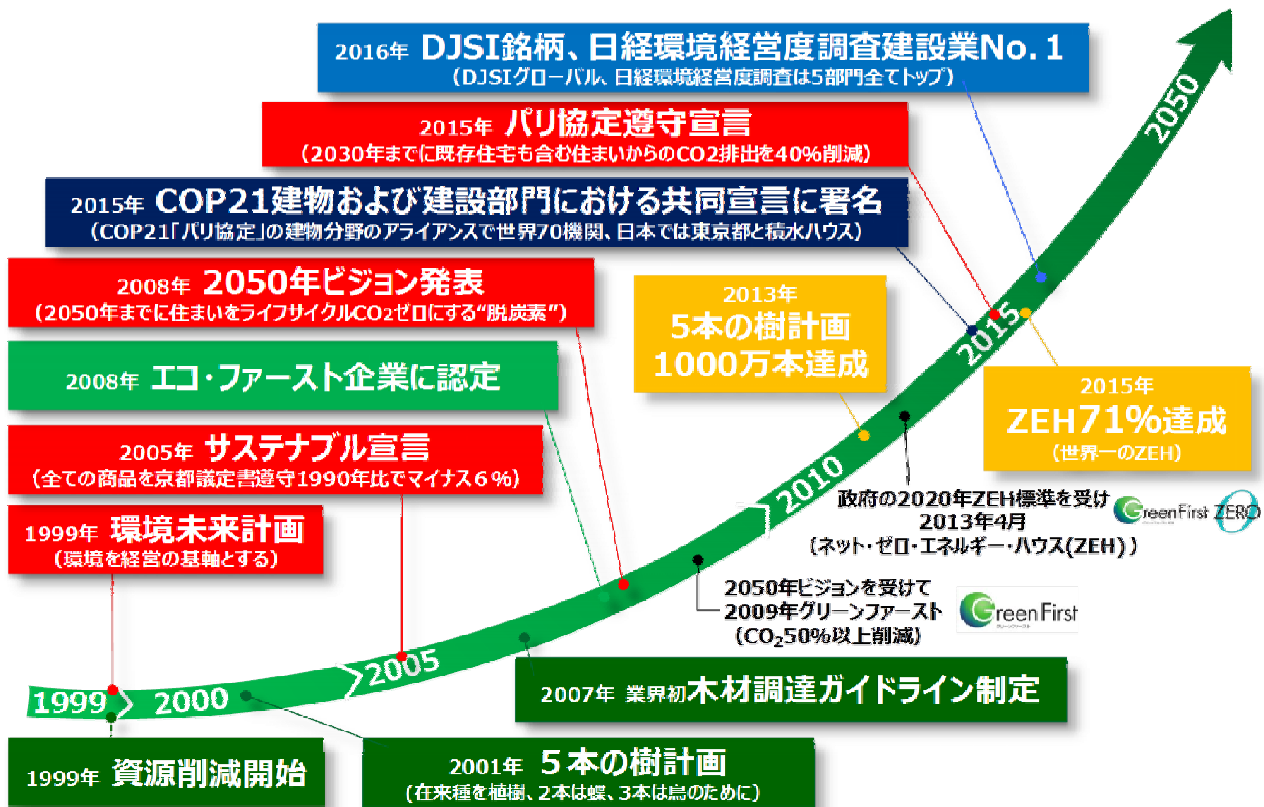


本件に関するお問合せ先
積水ハウス株式会社 広報部
(大阪)TEL06-6440-3021 (東京)TEL03-5575-1740



1. 温暖化防止対策への取り組み

積水ハウスは、1999年に環境を経営の基軸とする「環境未来計画」を発表、次世代への未来責任を明確にしました。2005年に全ての新築住宅のCO₂排出量を京都議定書の目標である1990年比マイナス6%にする等の「サステナブル宣言」を行いました。これらに基づく具体的な活動が認められ2008年に、住宅・建設業界で初めて環境大臣が認定する環境先進企業「エコ・ファースト企業」の認定を受けました。そして同年、2050年までに住まいからのCO₂排出量をゼロにする「2050年ビジョン(脱炭素宣言)」を策定しました。その後2014年には、政府の2020年までに住宅メーカー等の新築住宅の過半数をZEH化する目標を受け、業界に先駆けてZEH「グリーンファーストゼロ」の普及に努め、積極的に温暖化防止対策を進めてまいりました。



積水ハウスの環境戦略の歴史

2. 住宅が牽引するこれからの地球温暖化防止活動

2015年11月のCOP21では地球温暖化は科学的根拠であり、避けられない人類共通の危機であることが世界共通認識であるとされ、政府も「2030年までに温室効果ガスの排出量を2013年比で26%削減する」ことを公約しました。中でも家庭部門においては約40%ものCO₂排出削減が求められており、住宅メーカーに課せられた責務は重大です。建物から排出される温室効果ガスの割合が大きいことを受けCOP21において「建物および建設部門における共同宣言」がなされました。積水ハウスは、日本の民間企業では唯一、賛同・署名し、2015年12月に日本のパリ協定の約束遵守宣言をしました。

こうした積水ハウスの具体的な行動が高く評価され、2016年11月、COP22公式イベント「Buildings Day」において、日本の民間企業で唯一、当社のZEH普及について事例紹介を行いました。

政府は、家庭でのエネルギー消費を削減し、CO₂排出量を抑制するため、高い省エネ性能と太陽光発電システムや燃料電池を用いて正味のエネルギー消費量をゼロにする「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)」の普及を進めており、「2020年までに標準的な新築住宅をZEH化する」ことを目標に掲げています。

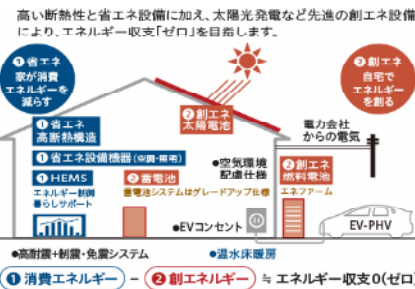
積水ハウスは、環境大臣が認定する環境先進企業「エコ・ファースト企業」として、2020年には新築戸建住宅における「グリーンファーストゼロ」比率80%の達成と、新築戸建住宅のみならず、賃貸住宅、分譲マンション、リフォーム・リノベーションにおいてもZEH化を積極的に推進し“脱炭素社会”を目指します。

【参考】

「グリーンファースト ゼロ」の概要

ZEHは、省エネと創エネを組み合わせることで、一次エネルギー消費量が正味でゼロとなる住まいです（家電・調理等のエネルギー消費は除く）。ZEH「グリーンファースト ゼロ」は、高い断熱性と省エネ機器により消費エネルギーを大幅に削減。さらに、太陽光発電システムや燃料電池などの創エネ機器により、エネルギー収支「ゼロ」を目指します。

積水ハウスは、住宅はエネルギーのために建てるのではなく、敷地やライフスタイルに合わせて設計し、快適に暮らしながら環境へも配慮することが必要だと考えています。このため、太陽光発電システムは瓦型太陽電池を採用し、複雑な屋根形状にも柔軟に対応します。これにより、デザイン性の確保とまちなみに適した環境配慮型住宅とすることが可能です。当社の全戸建住宅に対応し、オーナー様に満足度の高い快適な暮らしの提案を強化しています。



自然とつながる快適な暮らしを実現し ZEHにも対応

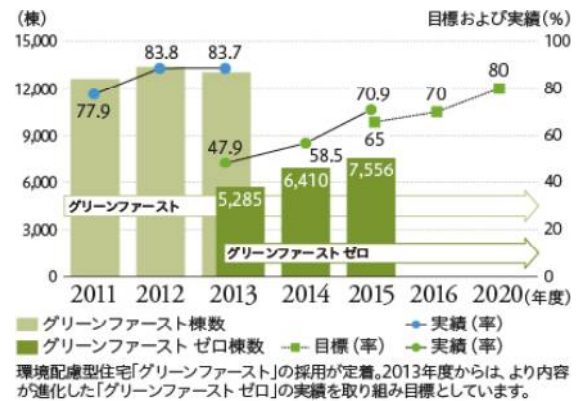


モジュールにあわせた瓦型の太陽電池の採用 屋根の形状を選ばず隅々まで設置が可能

「グリーンファースト ゼロ」の販売棟数とCO₂排出削減の実績とユーザー評価

(販売棟数実績)

2009年には、快適に暮らしながらCO₂排出量を1990年比で50%以上削減する「グリーンファースト」の販売を開始し、2012年には新築戸建住宅の84%、2015年度には累積棟数は82,000棟に達しています。2013年にZEH「グリーンファースト ゼロ」の販売を開始し、2014年には早くも政府の2020年に新築住宅の過半数をZEH化する目標を達成。2015年には新築戸建住宅におけるZEH比率が71%となりました。2016年7月までの「グリーンファースト ゼロ」累積棟数は23,469棟に達しています。



グリーンファースト及びグリーンファースト ゼロの販売実績

(CO₂排出量削減効果)

ZEHは、生活時の一次エネルギー消費量を収支ゼロにできるため、大幅なCO₂排出量削減が可能です。積水ハウスの試算では、1990年の平均的な住宅※1のCO₂排出量は4.923t・CO₂/年・棟。「グリーンファースト ゼロ」のCO₂排出量は平均0.578t・CO₂/年・棟で削減量は4.346t・CO₂/年・棟となり、1棟あたりの削減率は88%です。これに累積棟数を乗じると「グリーンファースト ゼロ」によるCO₂排出量削減は合計98,421t・CO₂/年となっています。

※ 床面積145㎡、旧省エネ断熱、一般ガス給湯器、一般エアコン、白熱灯照明ベースの試算

(ユーザー評価)

2015年3月に実施した「居住1年後のアンケート調査(積水ハウスZEHの顧客N=516)」によれば、ZEH居住者の評価は95%を超える高い満足度でした。積水ハウスの考える快適な暮らしとネット・ゼロ・エネルギーの暮らしの両立が実現しています。

【ユーザーの声(一例)】

- ◆コストがかかるのは仕方ないが、それだけの価値がある。光熱費ゼロどころかプラス2万円だった。
- ◆高い居住性を良いコストパフォーマンスで得られた。光熱費の削減、燃料電池床暖房の快適さに満足。
- ◆ZEH仕様、太陽光発電、など薦められたものを全て取り入れた結果、非常に快適に生活できている。
- ◆太陽光発電、燃料電池、蓄電池等の採用は非常に満足。冬は暖かく、夏は過ごしやすい。